



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

問題【国語】

今回は因幡の白兔がテーマ。次の問いに答えなさい。

- (1) 兎がもとも住んでいた島はどこでしょうか。
- (2) 兎が因幡の国(本州)へと渡ろうとしたときにだました動物は何でしょうか。

豆知識 雑学コラム

「ワニ」の正体は？

今回は、古事記に書かれている「因幡の白兔」についてみていきましよう。

因幡の白兔のあらすじは次の通りです。昔、隠岐の島に兎が住んでいました。

ある日、兎は「ワニ」をだまして、隠岐の島から因幡の国へと渡ろうと考え、実行しました。しかし、もう少しで因幡の国、というところで、「ワニ」にだましたことがばれて、兎は毛を全て取られてしまいました。大国主がその困っている

兎を助けて、その後、こころ優しい大国主は美しいお姫様と結ばれましたという話です。

さて、この話の中では「ワニ」という動物が出てきます。現在、ワニと呼ばれている動物は主に熱帯地方に住む、口の大きいどう猛なは虫類の仲間のことを指しますよね。ワニは日本に生息していない動物です。実際、日本の池でワニに襲われたなんてことがあれば、大ニュース

になってしまいますよね。では、古事記の中の「ワニ」とは一体何者なのでしょう。か。

有名な説として、「ワニの正体はサメ説」があります。古事記が書かれた時代、サメのことをワニと呼んでいました。現在でもその名残として、中国地方には「サメ」のことを「ワニ」と呼んでいる地域もあります。こうしてみるとかなり有力な説に見えてきますね。実際、この説を採用して辞書の中には「ワニはサメの古い呼び方」と紹介しているものもあります。

もう一つの説に「ワニは現在のワニ」というものがあります。日本には昔から海を渡って多くの人や文化がやってきました。歴史の授業の中で、三世紀から七世紀ごろに大陸から渡来人がやってきたことや、奈良時代の天平文化を伝える正

倉院の宝物の中に中国や、遠くイランのものがあることからわかるかと思えます。こうした人々のなかに、は虫類のワニを知っている人がいて、ワニという恐ろしい動物がいると広めた結果、古事記に恐ろしい動物としてワニが出てきたというものです。

上に紹介した説以外に「ワニは龍」といった説もあります。しかし、実際のところ古事記の中でワニについて「ヒレがある」や「尾が長い」などの詳しい記述がないため、「ワニ」が何者なのかはわからないままです。いずれにしても「ワニ」は兎の毛を取った恐ろしい動物にかわりありませんね。

【解答】

(1) 隠岐 (2) サメ、ワニ